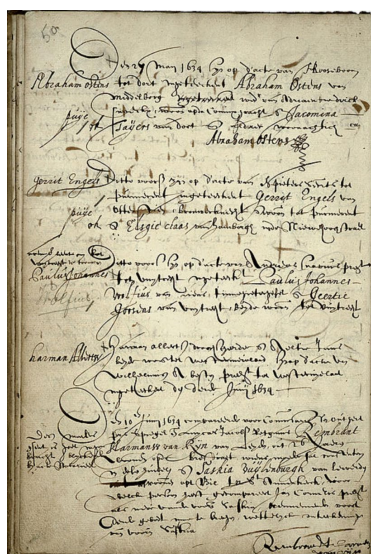


「光と影の画家」として知られるレンブラントは、生涯にわたって精密さや質感を追求しながら物語画や肖像画に取り組みました。本展は、レンブラントの人生に暖かい陽光を降り注いだ妻サスキアおよび彼女の出身地フリースラントとレンブラントについてご紹介します。21世紀初頭まで農夫の娘と考えられていたサスキアは、フリースラントの中心地レーウワールデンの名士の娘であることが明らかになり、サスキアの財産がレンブラントの画業を支えたと考えられています。本展は、サスキアに焦点を当てることで、こうした見方に対して補足をしながら、レンブラントにとってのサスキアとフリースラントを再考するものです。

油絵のみならず版画を精力的に製作したレンブラントは、版画の刷紙として和紙を好んで使用しました。ユネスコの無形文化遺産の一つである和紙の主たる原料は、楮（こうぞ）、三椏（みつまた）、雁皮（がんび）の3種類です。和紙比ベコーナーを設置しました。見て・触って・比べても、本展をお楽しみください。なお、本展は岡倉天心の活動拠点であった北茨城・五浦で設立された研究所を前身とする茨城大学五浦美術文化研究所の所員企画展であることから、当研究所所蔵の日本画のなかから五浦の海を連想させる酒井三良の《海》も展示しております。



レンブラントとサスキアの婚姻誓約書（アムステルダム市役所）

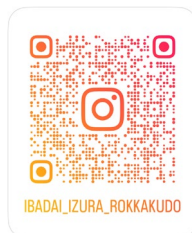
17世紀初頭のネーデルラント（1608年）

ユトレヒト大学図書館貴重書コレクション  
（請求番号：KAART: \*VIII\*.B.b.2 (Dk37-11)）



サスキアの生家（左）とそれを示すプレート（右）  
（2021年9月 池庄司撮影）

茨城大学へのアクセスはこちら！公共交通機関を利用して  
お越しください。



IBADAI\_IZURA\_ROKKAKUDO



↑ 茨城大学五浦美術文化研究所の活動はこちらから！